

平成22年度病虫害発生予報第5号

平成22年8月3日
愛知 県

1 普通作物

いもち病（葉いもち）の発生量は、現在少ない状況です。しかし、葉いもちが発生しているほ場では、今後の天候によって穂いもちが発生するおそれがあります。ほ場での発生状況を確認し、上位葉に病斑を見つけたら防除を実施しましょう。

セジロウンカの発生量は、県内各地でやや多い状況が続いています。また、ヒメトビウンカ幼虫の発生量が、かなり多いほ場を複数確認しています。いずれも、ほ場での生息状況を確認して、必要に応じて防除しましょう。なお、トビイロウンカの飛来および発生は現在のところ確認されていません。しかし、九州・四国地方では予察灯への飛来が認められています。本種は、ほ場内で局部的に生息することが多いので注意してください。ウンカ類の飛来・生息状況は、本日発表の「ウンカ情報第2号」を参照してください。

斑点米の原因となるアカスジカスミカメなどのカメムシ類の発生が、平年と比べ多くなっているため注意が必要です。出穂期直前に畦畔や土手などの草刈りを行うと、カメムシ類を水田へ追い込むことになるので気をつけましょう。詳しくは、7月22日発表の「病虫害発生予察注意報第4号」を参考にしてください。

ハスモンヨトウのフェロモントラップにおける誘殺数は、現在のところ平年並に推移していますが、ダイズでは白変葉が見え始めたら、早めに防除しましょう。詳しくは本日発表の「ハスモンヨトウ情報第1号」を参考にしてください。

2 果樹

チャハネアオカメムシのフェロモントラップにおける誘殺数は、非常に多い状況が続いています。越冬成虫が生存している8月中旬まではナシ、ブドウ、カキ、カンキツ等への飛来が多いと思われます。防除対策等については、7月22日発表の「病虫害発生予察注意報第3号」を参考にしてください。

ナシでは、ナシヒメシンクイのフェロモントラップにおける誘殺数は平年並ですが、一部地域で発生が多い所があります。果実への食入を防ぐため、防除を実施しましょう。また、黒星病が多く発生しているほ場があります。来作のため秋期防除の準備をしましょう。

ブドウでは、べと病の発生が多いほ場があります。樹勢を維持し早期落葉を防ぐため、収穫後に防除しましょう。

カメムシ類防除のために合成ピレスロイド剤やネオニコチノイド剤を連用しているカキ園では、天敵類が減少しているため、今後、フジコナカイガラムシの発生が多くなることが予想されます。カメムシ類の飛来が少なくなつてからは、天敵に影響の少ない薬剤を使用して、天敵の保護に努めましょう。

3 野菜

アブラナ科野菜を加害するハイマダラノメイガのフェロモントラップにおける誘殺数は、現在のところ平年並ですが、育苗時には防虫ネットなどで覆い、成虫の侵入を防ぐよう心がけましょう。生育初期に加害されると芯止まりになるので早期発見、早期防除に努めましょう。

トマトではコナジラミ類の発生が増加する時期です。トマトではTYLCVの感染を防ぐため、育苗時、定植時にはタバココナジラミに効果のある粒剤を施用するとともに、侵入防止対策として、育苗施設の施設開口部に防虫ネット（目合0.4mm以下）を設置しましょう。

ハスモンヨトウのフェロモントラップにおける誘殺数は現在のところ平年並ですが、8月以降は急増する時期ですので、ほ場での発生状況に注意が必要です。

4 花き

オオタバコガのフェロモントラップにおける誘殺数は例年に比べやや多い状況です。キク（露地）では例年8月以降発生が増加するので、ほ場での発生動向に注意してください。

普通作物

・ 予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
イネ	いもち病 (穂いもち)	少ない	全域	7月下旬の葉いもちの発生量は少ない 8月の気温は高い 8月の降水量は平年並	— — ±
	紋枯病	平年並	全域	7月下旬の発生量は平年並 8月の気温は高い 8月の降水量は平年並	± + ±
	白葉枯病	平年並	全域	7月下旬の発生量は平年並 8月の降水量は平年並	± ±
	もみ枯細菌病	平年並	全域	7月下旬の発生量は平年並 8月の降水量は平年並	± ±
	ニカメイガ	やや少ない	全域	7月下旬の被害株率は少ない 予察灯における誘殺数は平年並 フェロモントラップにおける誘殺数は平年並	— ± ±
	セジロウンカ	多い	全域	7月下旬の発生量は多い 予察灯における誘殺数は平年並	+ ±
	トビイロウンカ	平年並	全域	7月下旬現在、発生を確認していない	±
	ツマグロヨコバイ	平年並	全域	7月下旬の発生量は平年並 予察灯における誘殺数は平年並	± ±
	斑点米カメムシ類	多い	全域	7月下旬の発生量は多い 予察灯における誘殺数はやや多い	+ +
	イチモンジセセリ (イネツトムシ)	平年並	全域	7月下旬の被害株率は平年並	±
	フタオビコヤガ (イネアオムシ)	やや多い	全域	7月下旬の被害株率はやや多い 予察灯における誘殺数は平年並	+ ±
	コブノメイガ	やや多い	全域	7月下旬の被害株率はやや多い 予察灯における誘殺数は平年並 フェロモントラップにおける誘殺数は平年並	+ ± ±
ダイズ	ハスモンヨトウ	やや多い	全域	フェロモントラップにおける誘殺数は平年並 8月の気温は高い	± +

・ 防除対策

[イネ・セジロウンカ]

発生が多いほ場では、キラップフロアブル、ダントツ粒剤、ベストガード粒剤などで防除しましょう。

[イネ・斑点米カメムシ類]

7月22日発表の「病害虫発生予察注意報第4号」を参照してください。

[イネ・フタオビコヤガ (イネアオムシ)]

スミチオン乳剤、MR. ジョーカーEWなどで防除しましょう。

[イネ・コブノメイガ]

パダン1キロ粒剤、MR. ジョーカーEW、トレボンEWなどで防除しましょう。

[ダイズ・ハスモンヨトウ]

本日発表の「ハスモンヨトウ情報第1号」を参照してください。

果樹

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ウンシュウミカン	黒点病	やや少ない	全域	せん定枝の胞子形成量は少ない 8月の降水量は平年並	－ ±
	ミカンハダニ	平年並	全域	7月下旬の発生量は平年並	±
	チャノキイロアザミウマ	やや少ない	全域	7月下旬の防風用のマキにおける払い落とし虫数は少ない 黄色粘着トラップにおける誘殺数は平年並	－ ±
ナシ	ハダニ類	やや少ない	全域	7月下旬の発生量はやや少ない	－
	ナシヒメシクイ	平年並	全域	フェロモントラップにおける誘殺数は平年並	±
モモ	せん孔細菌病	平年並	全域	7月下旬の発生量は平年並	±
	モモハモグリガ	平年並	全域	フェロモントラップにおける誘殺数は平年並 7月下旬の被害葉率は平年並	± ±
カキ	うどんこ病	少ない	全域	7月下旬の発生量は少ない	－
	カキノヘタムシガ	平年並	全域	第1世代幼虫による被害果率は平年並	±
	コナカイガラムシ類	平年並	全域	7月下旬の寄生結果枝率はやや低い カメムシ防除に天敵への影響が長期に及ぶ薬剤が使用されている	－ ＋
果樹共通	カメムシ類	多い (8月上中旬)	全域	予察灯およびフェロモントラップにおける誘殺数は多い ヒノキの球果量は少ない	＋ ＋

・防除対策

〔果樹共通・カメムシ類〕

7月22日発表の「病害虫発生予察注意報第3号」を参照してください。

野菜

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ダイコン ハクサイ キャベツ	ハイマダラノメイガ	やや多い	全域	フェロモントラップにおける誘殺数は平年並 8月の気温は高い	± ＋
	オオタバコガ	やや多い	全域	フェロモントラップにおける誘殺数は平年並 8月の気温は高い	± ＋
野菜共通	ハスモンヨトウ	やや多い	全域	フェロモントラップにおける誘殺数は平年並 8月の気温は高い	± ＋

・防除対策

〔ダイコン、ハクサイ、キャベツ・ハイマダラノメイガ〕

ダイコンでは、エルサン乳剤、カスケード乳剤などで防除しましょう。
 ハクサイでは、プリンスフロアブル、プレバゾンフロアブル5などで防除しましょう。
 キャベツでは、アルバリン/スタークル顆粒水溶剤、ダントツ粒剤、プリンス粒剤などで防除しましょう。

【キャベツ・オオタバコガ】

ファルコンフロアブル、フェニックス顆粒水和剤、プレオフロアブルなどで防除しましょう。

【野菜共通・ハスモンヨトウ】

ハクサイでは、アニキ乳剤、ラービフロアブルなどで防除しましょう。
 キャベツでは、フェニックス顆粒水和剤、マッチ乳剤などで防除しましょう。

花き

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
キク（露地）	ミナミキイロアザミウマ	やや多い	全域	7月下旬の発生量は平年並 8月の気温は高い	± +
	オオタバコガ	やや多い	全域	フェロモントラップにおける誘殺数はやや多い 8月の気温は高い	+ +

・防除対策

【キク（露地）・ミナミキイロアザミウマ】

ハチハチ乳剤、ダントツ水溶剤などで防除しましょう。

【キク（露地）・オオタバコガ】

幼虫を確認したら、直ちにスピノエース顆粒水和剤、フェニックス顆粒水和剤、プレオフロアブルなどで防除しましょう。

参考

東海地方 1か月予報（名古屋地方気象台7月30日発表）

〈予想される向こう1か月の天候〉

東海地方では、平年と同様に晴れる日が多いでしょう。

向こう1か月の気温は高い確率70%、降水量は平年並または少ない確率ともに40%、日照時間は平年並または高い確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は高い確率80%、2週目は高い確率60%、3～4週目は高い確率50%です。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

〔気温〕 低い：10% 平年並：20% 高い：70%

〔降水量〕 少ない：40% 平年並：40% 多い：20%

〔日照時間〕 少ない：20% 平年並：40% 多い：40%

〈予想される天候の特徴〉

当地方の向こう1か月の天候は、平年と同様に高気圧に覆われて晴れる日が多いでしょう。（7月31日～8月27日の晴れ日数の平年値は約18日）。